



学内広報

No.1294

2004.7.14
東京大学広報委員会



総合研究博物館の「石の記憶」展がディスプレイデザイン賞2004大賞を受賞（撮影：奥村浩司）（5ページに関連記事）

CONTENTS

一般ニュース 2	掲示板 6
総長の海外出張	平成17年度東京大学学術研究奨励資金による国際交流助成事業募集について、東京大学AGS研究会平成16年度研究課題募集のお知らせ、山上会館・山上会館龍岡門別館の夏季期間の休館について、第二食堂建物地下プールの特別公開、夏休み航空宇宙工学教室のご案内、東京大学天文学教育研究センター木曾観測所及び名古屋大学太陽地球環境研究所木曾観測施設の特別公開、「教養学部報」第476（7月7日）号の発行、地震研究所公開講義を開講、8月の診療・健康診断の日程について
部局ニュース 2	淡青評論 薬学部の教育制度 12
外国人留学生・外国人研究員等との懇親会開かれる、シンポジウム「死生観とケアの現場」開かれる、第31回医科学研究所シンポジウム開催される、特別展「石の記憶ーヒロシマ・ナガサキ」展が「ディスプレイデザイン大賞2004」・「企画・研究特別賞」・「ディスプレイ産業特別賞」、「シーボルトの21世紀」展が「ディスプレイデザイン優秀賞」を受賞	

研究協力部 総長の海外出張

平成16年7月30日（金）～平成16年8月3日（火）
天津フォーラム及び日中学長会議出席のため、天津市・北京市（中国）に出張する。



大学院人文社会系研究科・文学部 外国人留学生・外国人研究員等との懇親会 開かれる

6月16日（水）18時から、山上会館地下食堂で、大学院人文社会系研究科・文学部主催の外国人留学生、外国人研究員等との懇親会が開かれた。

懇親会には、大学院人文社会系研究科及び文学部に在籍する10カ国・地域の外国人留学生・外国人研究員等約50名と関係教職員約50名及び留学生博士論文作成支援ボランティア・ネットワークである「三金会」の先生方7名が参加した。

まず稲上研究科長の挨拶があり、続いて吉田国際交流委員会委員長の発声で乾杯したのち、懇談が始まった。懇談は、終始和やかな雰囲気の中盛会に行われ、途中に「三金会」を代表して、久野猛（元日比谷高等学校校長）氏から「三金会」の名称の由来や活動状況を踏まえた留学生とのエピソードなど心温まるご挨拶があった。最後に留学生を代表して、韓国の金順美（博士課程3年）さんから謝辞があった。大変流暢な日本語での「留学生のネットワーク」の挨拶は参加者すべてに感銘をあたえた。

出席した留学生と教職員は、それぞれの国の特色や言葉で友好を深め、日頃経験することのない楽しいひと時を過ごすことができ、20時頃盛況のうちに散会した。



稲上研究科長の挨拶



三金会・久野先生の挨拶



記念撮影

大学院人文社会系研究科・文学部 シンポジウム「死生観とケアの現場」開かれる

人文社会系研究科・文学部では、21世紀COEプログラム「死生学の構築」と「応用倫理教育プログラム」の共催で、「死生観とケアの現場」というシンポジウムが行われました。

第一部は、「死生のケア・教育・文化の課題」というテーマの研究集会が、6月12日（土）に文学部の教官談話室で、国内外の研究者11名、またフロアにも100名が参加して行われました。ケアの現場、教育の現場からの報告もふくめて、人文学、社会学、教育学、医学等々、さまざまな領域との交流において、より豊かな思考や実践の可能性について論じられました。



第一部、研究集会は文学部から下田正弘助教授が、また医学部から高橋都助手が共同で司会を務めた。

また第二部は、「死の臨床と死生観」というテーマの公開シンポジウムが、6月26日（土）に医学部講堂で開かれました。パネリストは、ノンフィクション作家の柳田邦男氏、広井良典千葉大学教授（社会保障論）、森岡正博大阪府立大学教授（生命学）、若林一美山梨英和大学教授（教育学）の各氏で、司会は竹内整一教授（倫理学）の5名で行われました。会場には、定員をはるかに超える500名の市民が集まり、14時から18時までの4時間、熱気あふれる議論が展開され、こうした問題に対する市民の関心の高さをうかがわせました。



第二部、階段教室で行われたが、全ての通路をうめつくすほどの聴衆が討論に耳を傾けた。

医科学研究所 第31回医科学研究所シンポジウム開催される

今年で31回目となる医科学研究所記念シンポジウムが6月1日（火）13時から医科学研究所講堂において開催された。

本シンポジウムは、医科学研究所が昭和42年に伝染病研究所から改組されたのを記念して昭和49年より毎年6月1日前後に開催されてきた。

法人化1年目の今回は、プロテオーム研究を展開している本研究所の先生方とともに、この分野で先進的研究を展開している先生方をお招きして「ポストゲノム時代の蛋白質研究」というテーマに基づいてプログラムが構成された。



講堂にて挨拶を行う山本所長

山本雅所長の開会の辞に引き続き、本研究所プロテオーム解析（ABJ・Millipore）寄付研究部門・磯邊俊明客員教授による「ポストゲノム時代の蛋白質研究：プロテオミクスからのアプローチ」、同じく細胞ゲノム動態解析（ビー・エム・エル）寄付研究部門・服部成介客員教授による「プロテオーム解析による細胞内シグナル伝達系の研究」、20分の休憩をはさみ、北海道大学薬学部・稲垣冬彦教授による「自然免疫の構造生物学」、そして理化学研究所脳科学総合センター・宮脇敦史教授による「蛍光で探る細胞内シグナリング」、最後に分子細胞生物学研究所核内情報研究分野・加藤茂明教授による「核内ステロイドレセプター転写共役因子複合体群の機能」について、各々40分間の講演が行なわれた。

詳しい講演内容やプログラムについては、医科学研究所ホームページで公開しているのでご覧になっていたいただきたい（<http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/>）。

講演会場の医科学研究所講堂は、例年のことであるが、所内外からの多くの参加者で満席となり、立って講演を

聴く者など本研究所シンポジウムへの関心の高さが窺われた。

本シンポジウムに先立ち、前日の5月31日（月）13時30分から講堂で医科学研究所に所属する若手研究者による1分間スピーチ「フラッシュ・トーク」（医科学研究所研究成果発表会）が昨年に引き続き開催され、若手研究者が熱心に研究の成果報告をおこなった。また、5月31日（月）～6月1日（火）の2日間、アムジェンホールにてポスター発表会がフラッシュ・トークと連動する形式で行なわれた。

この創立記念のイベントには延べ300人、そして、60件のポスター発表の中から投票により最優秀ポスターが選ばれ、シンポジウム終了後の医科研恒例の野外パーティーにおいて表彰がなされた。



野外パーティーにて最優秀ポスターの表彰式



ポスター発表会場

総合研究博物館

特別展「石の記憶—ヒロシマ・ナガサキ」展が「ディスプレイデザイン大賞2004」・「企画・研究特別賞」・「ディスプレイ産業特別賞」、「シーボルトの21世紀」展が「ディスプレイデザイン優秀賞」を受賞

総合研究博物館が開催した特別展示「石の記憶—ヒロシマ・ナガサキ」展（平成16年1月24日（土）から4月12日（月））が日本ディスプレイデザイン協会によって第38回「ディスプレイデザイン大賞2004（朝日新聞社賞）」に選出され、同時に「企画・研究特別賞」を受賞した。また特別展示「シーボルトの21世紀」展（平成15年10月4日（土）から12月7日（日））が「ディスプレイデザイン優秀賞」を受賞した。さらに、「石の記憶」は日本ディスプレイ業団体連合によって「ディスプレイ産業特別賞（日本経済新聞社賞）」にも選出された。



総合研究博物館特別展示「石の記憶—ヒロシマ・ナガサキ」（撮影：奥村浩司）

ディスプレイデザイン賞は、日本ディスプレイデザイン協会によって選定される「デザイン」に対して与えられ、商品の陳列・展覧会場の造作などの空間デザインから看板・ネオン広告などのサインデザイン、さらに博物館・テーマパークなどにおけるあらゆる展示が対象になっている。全国から寄せられた約600点の応募作品の中から特に優れた作品を「優秀賞」として選定し、さらにその中で最も優れた作品に対して「ディスプレイデザイン大賞」が贈られる。またディスプレイ産業賞は、ディスプレイの創造力、技術力の向上とディスプレイ産業振興のために設けられた賞である。

「ディスプレイデザイン大賞」は、展示に関わる者が一度は受賞を夢見る賞であり、その受賞は最高の榮譽である。総合研究博物館の展示が、大賞はじめ優秀賞、企

画・研究特別賞を受賞したことは、総合研究博物館の公開展示活動が社会から高く評価されたことを意味しており、総合研究博物館ばかりでなく東京大学にとって極めて意義深い。

受賞理由には、「学術的なテーマ性と試料体、試料に傾注された研究者の意欲、そしてそれらを表現する芸術的なデザインが一体となった大学博物館ならではの傑出した展示であった」とある。大学博物館としての博物館を追求している総合研究博物館における寄附研究部門「ミュージアムテクノロジー」との協働の成果である。



研究協力部

平成17年度東京大学学術研究奨励資金による国際交流助成事業募集について

募集

下記要項のとおり募集しますので、各事業の提出期限までに所属部局を通じ、研究協力部国際課まで提出願います。

なお、申請手続き等詳細につきましては、各部局担当係へお問い合わせください。

各事業の申請書類は下記のURLにてダウンロードできます。

<http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/res/res2/topframe.html>

1. 海外学術交流研究拠点設置・運営経費助成事業
2. 東大シンポジウム開催経費助成事業
3. ジョイント・フォーラム開催経費助成事業

平成17年度学術研究奨励資金による海外学術交流拠点設置・運営経費助成募集要項

1. 趣 旨

国際化の進展に伴い本学における教育・研究の一層の推進に寄与するため、海外での教育・研究の推進、当該国の学術団体・高等教育研究機関との間の学術交流の調整・推進、本学の教職員・学生等関係者に対する便宜供与などの目的をもった海外における学術交流の基地となる海外学術交流拠点（以下、「海外拠点」という）の設置（事前調査を含む）及び運営に対して、必要な経費の一部を学術研究奨励資金から助成するものである。

なお、本事業は、平成17年度をもって終了の予定である。

2. 応募資格

海外拠点設置（計画）の代表者である本学の教授又は助教授

3. 助成期間

1年（昨年度に引き続き助成を希望する場合も、再度申請をするものとする。）

4. 補助の対象となる要件

- (1)東京大学の国際戦略上、重要度が高いもの
- (2)助成期間終了後の運営体制が検討されているもの

5. 助成経費

(1)海外拠点開設のための事前調査に係る経費（旅費、謝金等）

(2)海外拠点への教員の派遣旅費

(3)海外拠点運営経費（消耗品費、謝金、設備備品費、建物借料等執行可能なもの）

※(1)及び(2)の場合の旅費は、本学から訪問先研究機関までの最も経済的な通常の経路及び方法による旅行に必要な往復航空賃（エコノミークラスのディスカウント運賃）、往復鉄道賃等（本学から最寄りの空港までとする）、滞在費（東京大学旅費規程による日当、宿泊料）及び日本国内空港施設使用料とする。

6. 助成額及び採択予定件数

1海外拠点当たり、400万円程度を限度とし、採択件数は、2件程度を予定している。

7. 申請手続及び提出期限

別紙様式1により、平成16年9月10日（金）までに、所属部局長を通じて総長あて提出すること。なお、各部局内においての提出期限については、各部局事務担当に問い合わせること。

8. 選考及び採否の通知等

選考は学術研究奨励資金実施委員会が行い、採否の結果は平成16年11月下旬頃までに所属部局長あて通知する。

なお、選考に当たって必要な場合は、ヒアリングを実施することもある。

9. 報告書の提出

別紙様式3により、平成18年4月末日までに、所属部局長を通じて総長あて提出すること。（様式については、採択通知に添付する。）

10. 申請書等送付先

研究協力部国際課

平成17年度東京大学学術研究奨励資金による東大シンポジウム開催経費助成募集要項

1. 趣 旨

学際的で部局間にまたがるやや規模の大きい国際研究集会を「東大シンポジウム」として開催することとし、そのために必要な経費の一部を学術研究奨励資金から助成するものである。

なお、本事業は、平成17年度をもって終了の予定である。

2. 応募資格
本学の教授、助教授、講師又は助手とする。
3. 対象分野
人文、社会及び自然科学の全分野
4. 助成の対象となる要件
 - (1)学術的に重要かつ緊急度が高く、東京大学の名称を冠するにふさわしいもの（ただし、学会主催による国際会議等を除く）
 - (2)特定の主題について、内外の研究者が学術的発表及びそれに関する討議を行い、その分野の研究を増進することを目的とするもの
 - (3)日本側の主要メンバーは、本学教員で、2以上の部局の教員が参加するもの
 - (4)主催にかかる運営の学内体制が十分に確保されるもの
 - (5)平成17年度中に開催されるもの
 - (6)主たる経費の出途が学術研究奨励資金によるもの
5. 助成の対象となる経費
 - (1)外国人招待講演者の旅費（日当・宿泊料を含む）並びに外国人一般参加者の滞在費（日当・宿泊料）
 - (2)国内の学外招待講演者の旅費（日当・宿泊料を含む）
 - (3)招待講演者の講演謝金（主として外国人参加者）
 - (4)シンポジウム開催に直接必要な印刷（製本）費、通信運搬費、会場借料等注）本学の教員は招待講演者とみなされないため講演謝金は支給されない。また、原則として、旅費も支給されない。
6. 助成額及び採択予定件数
1件の助成額は、400万円程度を限度とし、採択件数は、2件程度を予定している。
7. 申請手続及び提出期限
開催責任者は、「平成17年度東大シンポジウム開催経費申請書」（別紙様式1）一部を、当該シンポジウムの概要（サーキュラー等）の資料があれば添付し、所属部局長を通じて、平成16年9月10日（金）までに総長あて提出すること。なお、各部局内における提出期限については、各部局事務担当に問い合わせること。
8. 選考方法及び採否の通知等
選考は学術研究奨励資金実施委員会が行い、採否の結果は平成16年11月下旬頃までに、開催責任者の部局

長あて通知する。

9. 報告書の提出
開催責任者は、シンポジウム終了後1ヵ月以内に「平成17年度東大シンポジウム実施報告書」一部を所属部局長を通じ速やかに総長あて提出すること（様式については採択通知に添付する）。
10. 申請書等送付先
研究協力部国際課

平成17年度東京大学学術研究奨励資金によるジョイント・フォーラム開催経費助成募集要項

1. 趣旨
本学と海外の優れた大学等と共催で行われるフォーラム等の開催に必要な経費の一部を学術研究奨励資金から助成するものである。
なお、本事業は、平成17年度をもって終了の予定である。
2. 応募資格
ジョイント・フォーラム開催（計画）の代表者である本学の教授又は助教授とする。
3. 対象分野
人文、社会及び自然科学の全分野
4. 助成の対象となる要件
 - (1)海外の大学・研究機関等で開催されるもの
 - (2)学術的に重要かつ緊急度が高く、東京大学が海外の大学等と共催するにふさわしいもの（ただし、学会主催による国際会議等を除く）
 - (3)特定の主題について、内外の研究者が討議を行い、その分野の研究を増進することを目的とするもの
 - (4)日本側の主要メンバーは、本学教員で、2部局以上の教員が参加するもの
 - (5)主催にかかる運営の学内体制が十分に確保されるもの
 - (6)平成17年度中に開催されるもの
5. 助成の対象となる経費
 - (1)本学教員の派遣旅費（日当、宿泊料を含む）
 - (2)学外招待講演者の旅費（日当、宿泊料を含む）
 - (3)ジョイント・フォーラム開催に直接必要な経費（印刷（製本）費、通信運搬費、謝金、会場借料等執行可能なもの）

6. 助成額及び採択予定件数

1件の助成額は、200万円程度を限度とし、採択件数は、3件程度を予定している。

7. 申請手続及び提出期限

開催責任者は、「平成17年度ジョイント・フォーラム開催経費助成申請書」(別紙様式1)一部を、当該フォーラムの概要(サーキュラー等)の資料があれば添付し、所属部局長を通じて、平成16年9月10日(金)までに総長あて提出すること。なお、各部局内における提出期限については、各部局事務担当に問い合わせること。

8. 選考方法及び採否の通知等

選考は学術研究奨励資金実施委員会が行い、採否の結果は平成16年11月下旬頃までに、開催責任者の部局長あて通知する。

9. 報告書の提出

開催責任者は、フォーラム終了後1ヵ月以内に「平成17年度ジョイント・フォーラム実施報告書」一部を、所属部局長を通じ速やかに総長あて提出すること(様式については採択通知に添付する)。

10. 申請書等送付先

研究協力部国際課

AGS推進室

東京大学AGS研究会平成16年度研究課題募集のお知らせ

募集

東京大学、マサチューセッツ工科大学(MIT)、スイス連邦工科大学、チャルマーズ工科大学によるAGSの国際的な研究・教育活動については、4大学全体の取組みを中心に活動してまいりましたが、今後各大学の位置する地域の活動にこれまでより力をいれるという方向で方針が固まりつつあります。

そこでAGS研究会ではアジア、とりわけ東南アジアを含む東アジアでの取組みを強化する方針で、東アジアを代表する大学・研究機関との連携(Alliance for Sustainability in Asia/ASA)を深めて、具体的な研究・教育分野で協力して行きたいと思っています

AGS研究会の方針として、研究基金の配分については、①ASA目的で戦略的に設定した研究プロジェクトへの研究基金、②従来の本格研究課題(Full Project)への研究基金、の2本立てで進めたいと思います。

1. 戦略的研究プロジェクト

下記5件の研究・教育プロジェクトを実施予定です。AGS研究会からの研究基金総額(5件の合計)は、1500万円です。下記研究プロジェクトに興味があり参加希望の方は、戦略的研究プロジェクト用申請用紙を用いて申請書を作成の上、ご応募下さい。

- 1) 東アジアにおける広域大気汚染の影響評価
- 2) 都市農村結合によるバイオマス循環社会の形成
- 3) 中国珠江デルタ都市におけるIT活用による都市マネジメント
- 4) 次世代モビリティ社会の評価基盤
- 5) 東アジアにおける学生交流と環境教育の推進

2. 本格研究課題(Full Project)

戦略的研究以外の、従来の本格研究課題(Full Project)につきましては、平成16年度(平成17年度実施)新規研究プロジェクトを募集いたします。今回は特にアジアのSustainabilityに重点を置き、持続可能な発展を求めるAGSの活動に沿った研究で、下記の点をご留意の上、助成ご希望の方は本格研究課題用申請用紙を用いて申請書を作成の上、提出をお願い致します。

3. 本格研究課題(Full Project)の採択基準

- ・アジアのSustainabilityに関する研究プロジェクトとして採択されることを目指す研究であること。また、AGS以外からの基金獲得の可能性や、民間との共同研究の可能性が見込まれる研究が望ましい。
- ・学際性、国際性、社会連携(注1)のいずれか一つ以上を満たすものであることが必須条件となる。
- ・一件当たり年間200万円以内の研究助成基金の予定。(注1)社会連携：技術や制度の社会における実装・普及を念頭に置き、研究プロジェクトにおいて社会の様々な関係者と連携すること。

○ 応募に際しましては、下記の点にご留意下さいますようお願い致します。

- ・研究代表者は本学教員であることが必須ですが、共同研究者として研究員、大学院生が参画できます。

○ 応募ご希望の方は、戦略的研究プロジェクト(戦略的研究プロジェクト)、本格研究課題(Full Project)それぞれの申請書をAGSホームページ

<http://www.esc.u-tokyo.ac.jp/AGS/newproject2004.htm>

よりダウンロードし、必要事項を記入の上、8月31日(火)までに電子メールに添付にて、下記までご提出をお願い致します。提出期限までに十分な期間がなく申し訳ありませんが、よろしくお願い致します。

- 申請書の提出先・問い合わせ先
本件につきまして、ご質問などございましたら、下記連絡先までお問い合わせ下さい。

浅尾 修一郎 (AGSコーディネータ)
AGS推進室 内線：27937
E-mail: ASAo@esc.u-tokyo.ac.jp

福士 謙介
環境安全研究センター 内線：22974
E-mail: fukushi@esc.u-tokyo.ac.jp

総務部

山上会館・山上会館龍岡門別館の夏季期間の休館について

お知らせ

山上会館・山上会館龍岡門別館では、下記のとおり休館とさせていただきます。

記

休館日：8月8日(日)～8月15日(日)

学生部

第二食堂建物地下プールの特別公開

お知らせ

第二食堂建物地下プールを次の期間、特別公開しますのでぜひご利用ください。

期 間：7月20日(火)～8月6日(金)の平日

8月19日(木)～8月27日(金)

時 間：11:00～14:00

第二食堂建物地下プールを使用する際、学部学生は学生証、大学院学生・教職員は運動会員証を持参してください。また、貴重品は持ち込まないでください。

※運動会員証は学生課課外体育係窓口(運動会窓口)にて発行しています。

準会員(院生・研究生他) 2,500円
特別会員(教職員) 3,000円

お問い合わせは、学生部学生課課外体育係(運動会窓口)まで。内線22509～22511。

大学院工学系研究科・工学部

夏休み航空宇宙工学教室のご案内

お知らせ

模型飛行機・ペットボトルロケットの製作・飛行を通して航空宇宙工学を体験する小中学生向け「夏休み教室」を下記のように開催いたします。

日 時 : 8月3日(火)、4日(水)
対象・定員 : 小・中学生 50名
費 用 : 教材費として一人1,000円
場 所 : 本郷キャンパス 工学部8号館
内 容 : 8月3日(火) 模型製作
8月4日(水) 飛行実験

詳 細 :
<http://www.flight.t.u-tokyo.ac.jp/~tsuchiya/summer2004/>

申 込 : 以下のアドレスへ、住所・氏名・電話番号・学年を書いて、メールにてお申し込み下さい。定員になり次第、締め切らせていただきます。

Email : summer-school@sky.t.u-tokyo.ac.jp

〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学工学部航空宇宙工学科 TEL: (03)5841-6632

(主催) 東京大学工学部航空宇宙工学科、東京大学工学部

(後援) 東京大学21世紀COEプログラム「機械システム・イノベーション」(予定)、宇宙航空研究開発機構(予定)、日本航空協会、日本航空技術協会

(協賛) 全日空(予定)

大学院理学系研究科・理学部

東京大学天文学教育研究センター木曾観測所 及び名古屋大学太陽地球環境研究所木曾観測 施設の特別公開

お知らせ

東京大学天文学教育研究センター木曾観測所及び隣接する名古屋大学太陽地球環境研究所木曾観測施設では、下記の日程で所内を公開いたします。本年は木曾観測所発足30年となりますので、例年1日であった公開を2日に渡って行う他、有名講師による特別講演会や天体観望会等も行いますので是非ご来所下さい。尚、申し込みは不要、入場無料です。

記

日 時： 8月7日（土）、8日（日）

見学と展示 7日（土）13時～19時

8日（日）10時～16時

天体観望会 7日（土）19時～21時半（雨天中止）

内 容：

- 1) 木曾観測所及び太陽風観測所の公開と説明
- 2) 望遠鏡のデモンストレーション
- 3) 教育・研究活動の紹介
- 4) 天文工作「分光器を作ろう」
- 5) 有名講師による特別講演
・半田利弘氏（東京大学） 7日（15時～16時）
8日（14時～15時）
・渡部潤一氏（国立天文台） 7日（19時～20時）
- 6) 天体写真の展示
- 7) 天体観望会（雨天中止）

交通機関：

車：JR中央西線木曾福島駅あるいは上松駅より車で約30分。

列車他：木曾福島駅より無料シャトルバスを運行します。詳しくはWebページをご覧ください。

問い合わせ先：

理学系研究科・天文学教育研究センター・木曾観測所
〒397-0101 長野県木曾郡三岳村10762-30
電話：0264-52-3360 FAX：0264-52-3361
<http://www.ioa.s.u-tokyo.ac.jp/kisohp>

大学院総合文化研究科・教養学部

「教養学部報」第476（7月7日）号の発行 ——教員による、学生のための学内新聞——

お知らせ

若林 正丈：発話する周縁ナショナリズム—台湾ナショナリズムを歴史の中に置く

深川由起子：韓国の混迷をどう見るか—グローバルズムに苦悩する現代新興国

石田 勇治：日本学術振興会『人文・社会科学振興のためのプロジェクト研究事業』領域Ⅱ～平和構築に向けた知の再編—「ジェノサイド研究の展開」がめざすもの

繁樹 算男・丹野 義彦・大森 拓哉：
学生相談所がパワーアップしました

宇都宮栄次：教務課

〈学び方〉新シリーズ

宮下 志朗：学問の学び方—語学編、文学編—ことばや文学と恋に落ちる

松尾 厚：数学の学び方—明日のために

〈時に沿って〉

井口 佳哉：私の教養学部時代

佐藤 直樹：新しい学問をめざして

「教養学部報」は、教養学部の正門傍、掲示板前、学際交流棟ロビー、生協書籍部、保健センター駒場支所で無料配布しています。バックナンバーもあります。

地震研究所 地震研究所公開講義を開講

お知らせ

地震研究所では今年も公開講義を開講します。今回は地震予知と地球の内部構造に関する研究の最前線についてお話しします。

一般向けの公開講義ですので専門外の教職員や学生にも理解できる内容となっています。

開 催 日：7月29日（木）13：00～15：00

開催場所：大講堂（安田講堂）

タイトル：

◎「地震予知の科学」加藤照之教授

◎「地球の中はどうなっているか」川藤均教授

聴講希望：以下のホームページをご覧ください。

<https://outreach.eri.u-tokyo.ac.jp/openlec-apply/>

○問い合わせ先

地震研究所アウトリーチ推進室（内線25643）

8月2日（月）～8月31日（火）の期間は、下表のとおり業務を行います。

■本郷支所（03-5841-2575）

診療科等	診療日時	対象者
内科	毎日（月～金）10：00～11：45	学生・職員
精神神経科	月～金 10：00～12：00、13：00～16：00 ※休診日があるため、事前に問い合わせ・予約のこと	学 生
歯科口腔外科	8月3日（火）10：00～12：00 倉代 8月4日（水）10：00～12：00 引地、13：00～15：00 宮路 8月5日（木）13：00～15：00 藤原 8月17日（火）13：00～15：00 古敷谷 8月18日（水）10：00～12：00 引地 8月19日（木）10：00～12：00 波田野	学 生
耳鼻咽喉科	8月4日（水）13：15～15：00 8月18日（水）13：15～15：00 8月9日（月）13：15～15：00 8月20日（金）10：00～12：00 8月13日（金）10：00～12：00 8月30日（月）13：15～15：00 8月16日（月）13：15～15：00	学 生
新規採用者 健康診断	8月4日（水）、25日（水）9：30集合	職 員
学生健診 追加検査	8月3日（火）13：30 集合 8月10日（火）13：30 集合 8月19日（木）9：30 集合 8月26日（木）9：30 集合	学 生
放射線取扱者 健康診断	8日20日（金）10：00～11：00	学生・職員

■駒場支所（03-5454-6831）

診療科	担当医	診療日	診療時間
内科	張	毎 週（月）	10：00 ～ 12：30
	石川	毎 週（水）	
	安東	毎 週（金）	
精神神経科	坂本	8月2日（月）午前、8月6日（金）全日、8月9日（月）午前 8月16日（月）午前、8月20日（金）全日、8月23日（月）午前	予 約 制
	佐々木	8月11日（水）午前、8月18日（水）午前、8月25日（水）午前	
	丸田	8月4日（水）午後、8月18日（水）午後、8月25日（水）午後	
	伊集院	8月9日（月）午後、8月23日（月）午後	
	高橋	8月18日（水）午前	
	滝川	8月11日（水）午後	
歯科	青柳	8月13日（金）、8月27日（金）	予 約 制
整形外科	休 診		
皮膚科	休 診		

■柏支所（04-7136-3040）

診療科	診療日時	対象者
内科	（月）（火）（水）10：00～13：00、14：00～16：45 （金）15：00～16：45	学生・職員
精神神経科	（月）（火）（水）10：00～13：00、14：00～15：00 （木）13：30～16：30 （金）13：30～15：30	

薬学部の教育制度

今国会で学校教育法および薬剤師法が改正され、薬学部（薬科大学を含む）の教育制度が大きく変わることになった。既に新聞報道等で存じの方もいるかと思うが、教育制度は大学の根本に関わることであり、また制度の内容について一部誤解もあるので、この点について説明しておきたい。今回改正された薬学部教育制度は、医療系学部である医学部、歯学部、獣医学部（学科）のように一律6年制になったわけではない。薬学部および薬学系研究科に、学部4年間+大学院5年間のコースと学部6年間+大学院4年間のコースを設置し、それぞれのコース（学科）で薬学部卒業あるいは薬学系大学院修了後の多様な進路に対応した教育を行うことができることになった。

従来、本学の薬学部卒業生の多くは薬剤師国家試験を受験し、薬剤師の免状を取得しているが、その主たる就職先は大きく二つに分けられる。一つは大学や国研あるいは企業の研究所などで医療に関する生命科学を基礎から支える部門であり、他方は大学病院の薬剤部等で直接医療に関与する部門である。本学の卒業生は前者の部門に関連する職に就く場合が多いが、この研究者養成教育では研究の高度化・専門化と同時に、課題探求能力の育成を目指した、より一層の大学院教育の充実が求められている。後者の部門では薬剤師としての職能教育として近年の高度医療に対応し、かつ臨床現場に即した薬剤師教育を行うため6年間の教育が必要とされている。この様な背景の下、上記の2コース

(学科) が設置されることになったわけであるが、ここで特筆すべき事は薬剤師受験資格についてである。

本改正は平成18年度入学者から適用されることになる。18年度以降に入学した者に対して、後者の学部6年制コースを卒業した者に従来と同様に国家試験受験資格が与えられるが、研究者養成を主目的とする前者の学部4年制コースの場合にも、さらに薬系大学院修士課程を修了すると共に、6年制コースと同じ教育内容（国家試験受験に必要な科目、病院実習、薬局実習など）を履修した場合に受験資格が認定されることになった。研究者になる者でも、臨床現場の医療の実際を体験し、それに基づいて国民医療に役に立つ研究を行う者がこのコースを選択することになるであろう。

平成12年11月22日付の大学審議会答申で「日本においては大学入学時に学部のみならず、学科まで

も決める必要がある場合もあり、実際に入学してから自らの興味・関心と修得する学問との間に齟齬を感じる学生が少なくない」と指摘されている。東大においては教養学部がありこの懸念は軽減されてはいるが、いまだ十分ではない。硬直化した教育システムに比べ、大学入学後、自らの適性に対応した進路を選択できる、このような柔構造化された制度は日本の大学においては初めてではないだろうか。この点から今回の制度改革を高く評価したい。ただ、惜しむらくは前者のコースでの薬剤師受験資格が12年の時限とされたことである。12年後に本制度が正当に評価されることを期待したい。

(大学院薬学系研究科 長野哲雄)



(淡青評論は、学内の職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

No. 1294 2004年7月14日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学総務部広報課 ☎ 03-3811-3393
e-mail kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
ホームページ <http://www.u-tokyo.ac.jp/jpn/index-j.html>



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO